

『中国語』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前文

令和8年度の共通テスト『中国語』の追・再試験を含む受験者は867人で、昨年度の874人に比べて7人減少した。「外国語」受験者の約0.19%であり昨年度と同じであった。今後も大学側がより一層中国語を入試に活用することが求められている。引き続き高等学校で中国語を学んだ高校生が進学に活用できる客観的な水準設定が望まれる。

令和8年度共通テストを以下の3点をよりどころに、また、15ページに記載の8項目の観点によって、総合的に検討・評価に当たることとする。

- (1) 共通テストは「高等学校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う」試験であるという観点に立ち、学習指導要領「外国語」の目標を重視する。

その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮すること。

- (2) 「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題となっているか」について、以下の教育現場からの「基本的要望」が尊重されているかを重視する。

- ① 細かすぎる難解な語法を問うことはせず、基本的な文法力を問うこと。
 ② 長文読解は、高校生になじみやすいテーマを選び、内容が抽象的すぎ、論理的に説明が難しいような出題は避けること。
 ③ リスニング試験が実施されないことを補うために、また、中国語学習にとって重要な発音の理解度を見るために、ピンインを重視して出題すること。

- (3) 令和7年度の問題作成部会の見解を参考とすること。

また、本試験と難易度の差が生じないような作成をお願いしたい。

2 内容・範囲

第1問 A～Cは昨年度の本試験と同じく発音の基礎を確認する問題であり、Dは状況や発話者が伝えたい内容を選択する形式ではなく、今年度の本試験と同様に、ピンインで示された文章が使われた会話文の後にその会話についての問いかけがあり、問いかけに対する答えを選択する問題となった。ピンイン学習を重視し、リスニング問題を補うだけでなく、会話の内容を的確に捉える思考力を重視する傾向が続いている。

第1問	A	B	C	D
計6問	声母	韻母	声調	ピンインによる会話
(計24点)	4点(4点×1問)	4点(4点×1問)	8点(4点×2問)	8点(4点×2問)

- A 下線部の声母が見出し語と同じものの数を選ばせる問題である。声母を正確に把握しているかが問われ、単なる語彙知識にとどまらない音声理解が必要である。単語は全て重要語であり、学習者の基礎発音知識を問う問題である。
- B 下線部の韻母（声調は問わない）が見出し語と同じものを数えさせる問題である。韻母の区別を綴りの段階で整理できているかが試される。見出し語も重要語が用いられ、日頃のピンイン学習の確実さが得点を左右する適問である。
- C 声調の組合せを問う問題であり、見出し語と同じものの数を問う形式である。重要語の発音の基礎を確認する問題である。
- D 会話文がピンインで示されており、ピンイン学習を重視する出題となっている。会話文で用いられている単語は、標準的なものであり、単なる応答ではなく会話の状況を考える必要がある適問である。

問1 日常的な生活の場面設定であり、選択肢にも工夫が凝らされているため、会話文全体の正確な内容把握が試される良問である。

問2 会話全体の流れを理解したうえで、理由を適切に読み取る力が求められる。内容自体は身近な題材であるが、発話の意図や前後関係を丁寧に追う必要がある。

第2問 本試験に同じく、出題形式にやや変更があり、少し長めの文章中の空欄を補充する問題がなくなり、昨年度の第3問のAの出題形式が第2問で出題されている。第2問全体の配点は昨年度の本試験に比べ半減した。

- A 適切な語を選択する空欄補充問題であり、基本語彙の意味の理解と運用力が求められる。選択肢はいずれも重要語で、初学者から中上位層までを適切に判別できる構成である。意味・用法の近い語の使い分けを問う設問であり、文全体の意味理解が必要となる。
- B 疑問詞の中から「適当でないもの」を選ばせる形式である。「適当でないもの」を選ぶという設問形式は難度が高くなる。選択肢はいずれも基礎的な単語である。
- C 短文中の空欄に入る適語を、八つの選択肢から二つ選択させる形式である。文全体の意味把握と語の文法的性質の理解が不可欠であり、思考力・判断力を測る設問となっている。

問1 日本語文で表現されていることを正確に読み取り、文の流れに最も適切な語を選択する問題である。アスペクト表現と語気助詞の“了”が使われている文において、比較の表現が組み合わせられており、内容の理解が求められている。

問2 限定・強調の用法である、“不是”“就是”や、可能補語の表現、日本語文のニュアンスを読み取った上で“都”の用法について問うている。文法的組み合わせを正しく判断する必要がある、良問である。

第3問 中国語文を日本語訳することを通して、理解力を見取ったり、中国語の作文を通してセンテンスにおける表現力を見取ったりする設問である。昨年度の本試験とは、設問形式、設問数が変わり、A、Bで設問数は8題である。中国語の重要語が用いられた文章であり、学習してきた単語や文法事項、語法を活用し、内容理解することで正答に至ることができる問題になっている。

- A 示された日本語文に相当するピンインで記された中国語文を選ぶ出題である。

問1 程度表現に関する問題であり、「そこまで～ではない」という意味を中国語で適切に表現できるかを問う設問である

問2 強調構文“是…的”の理解及び、日本語文との対応を正確に理解する力を試される設問である。

問3 因果関係を示す表現の理解が問われる問題であり、単純な因果関係を表す接続詞で

はなく、動詞「説明」を用いた因果関係の理解が必要とされる。

問4 中国語特有の依頼表現に対する理解を求めており、状況に応じた自然な言い回しを選択できるかが問われる。

B ピンインで示された中国語文に相当する日本語文を選ぶ出題である。

問1 「听他说」(彼が言うには)という表現の理解とともに、文中の各語の理解を要する問題である。

問2 本文の内容と選択肢を照合し、適否を判断する問題である。文章全体の流れを理解しているかが問われる。

問3 「A想B什么就B什么」という重要構文が用いられており、日頃の学習を問う適問である。

問4 場面設定が「試験」であるため、受験者にとって身近な単語が使われている。日頃の中国語学習において身近な単語を学ぶ重要性も示唆される問題である。“不能少”が「欠けてはいけない」という意味であるということを理解することが重要である。

第4問 A・Bともに、設問文や選択肢を含む複数の言語材料から総合的に判断する融合問題であり、各問が見開きで構成され、読み進めやすいよう配慮されている。中国語の語彙や表現を理解しているかを問うだけでなく、探究的な学習の要素の強い活動であり、身近な話題から始まり抽象的な内容へと展開している。その過程において、内容や文脈を正確に読み取ったり、複数の情報をもとにして考えたりする問いがあり、優れた構成である。

A 授業での発表に向けて自動運転をテーマに調べている状況にあって、内容理解を問う設問である。身近な話題を扱いながら、自動運転について、技術的なことや倫理的なことなど、多面的・多角的に考えさせる構成となっている。

問1 会話文の内容と一致する選択肢を選ぶ問題である。会話文を読んだ上で、“必須”等の単語から内容を正確に捉える必要があり、文章を精査する力が求められる適切な問題である。

問2 グラフや図、文章に示されている自動運転に関する情報について、その関係性を正確に読み取る力が試される適問である。(1)「適当でないもの」を選ばせる形式である。(2)は説明文と図から読み取る形式である。表面的な語句の一致だけではなく、選択肢の中国語文を読み取ったり、日本語文としての的確に表現できているかを考えたりする必要がある。

問3 自動運転に関する講演会の趣旨を正確に読み取る力が要される設問で、抽象的な表現を具体的な文脈と結び付けて理解する力が問われ、選択肢の文章もよく練られている適問といえる。文中には、日常的に用いられている単語のみならず、抽象的なことを意味する単語も多く、中国語の語彙力が求められる。

B 授業での発表に向けて調査するという場面において調べたり考えたりする状況にあって、示されている中国語による情報から、必要な事柄を読み取る設問である。実生活に即した場面設定で、読解力を融合的に測る良問である。

問1 SNSアカウントを模した資料から必要な情報を選ぶ設問である。基礎的・基本的な単語が多く用いられている中で、複数の情報をもとに判断する必要があり、総合的な思考力が求められる良問である。

問2 (1)は二つの図とメモから分かる情報を読み取る設問である。資料全体を把握した上で必要な情報を取捨選択する力が求められる。(2)は自動運転に関して注意すべきことをまとめたチラシから、必要な情報を読み取る設問である。図と文を組み合わせながら考える必要があることは評価できるが、一方で「注意すべきこと」が意味することについて、主体とな

る立場がそれぞれ異なることによる難しさがあり、一考を要する。

問3 発表に基づいて行われたディスカッション後に書いた感想文（振り返り）を読み取る設問である。文章全体を総合的に理解する力が問われている。

第5問 母と娘の日常の一場面を描いた物語文を読み、設問に答える形式である。親子の会話や行動を通して、母親の心情の揺れや娘の成長が描かれている。具体的な描写と心理描写があり、語彙や表現の理解だけでなく、文脈を正確に読み取り、出来事の前後関係や人物の心情を踏まえて判断する力が求められる問題である。物語全体を通じた総合的な読解力が試されており、良問が多い。

問1 下線部の内容を理解した上で、それまでの描写を踏まえて心理状態を読み取れるかを問う問題である。場面の流れを理解したうえで判断する必要がある。

問2 下線部の比喩表現や結果補語を用いた中国語を正確に理解し、怒りにつながる理由を問う設問である。

問3 下線部の理由を問う設問である。下線部以降の段落の娘の言動や過去の経験との関連を踏まえ、人物の内面を読み取る必要がある、文章全体の内容理解が必要な良問である。

問4 二つの空欄に入る語を選ばせる設問である。空欄前後の文脈を読み取り、文脈や状況に即した語を選択する必要がある。

問5 下線部の意味として最も適当なものを選ぶ設問である。“把”構文の文章の構造把握、語彙力と文脈理解の双方が必要とされる適問である。

問6 下線部の理由を問う設問である。出来事の前後関係を整理しながら読み取る力が求められる。

問7 空欄に入る語を選ぶ設問である。会話の流れや論理関係を踏まえ、語彙の正確な理解力をもって、適切な接続語を選択できるかが問われている。

問8 文章中の複数の空欄に入る接続語を選ばせる設問である。文章全体を通して空欄が設けられている。各段落の内容を理解し、それぞれの語の意味と文の繋がりを考えて選ぶ必要がある。

問9 本文中の出来事を時系列に整理する設問である。物語全体の展開を把握し、出来事の前後関係を正確に理解していることが求められる。

問10 本文の内容と一致するものを選ぶ設問である。文章全体の内容を把握していることが求められている。

3 分量・程度

(1) 分量

第4問は文章と図やグラフ等の資料・会話を組み合わせた問題であり、複数の情報から読み取り判断する問題である。書かれた情報を整理し、考察する能力を試される。また、今年度の第5問の長文は33字×32行で、文章量は昨年度の本試験より7行分増加しているが、第2問の問題数は減少しており、全体を通して適切な分量である。

(2) 程度

昨年度の本試験と同様、第4問の各設問を見開き2頁内に収めており受験者への配慮が認められる。昨年度の本試験と比べ、第5問の文章量は増加しており、内容について正確な読解力を要されている。

内容については、重要語を中心に問題文や選択肢が構成されており、難解なレベルのものは多くない。また、第4問は探究的な学習の要素が強く、第5問はメッセージ性のある内容であり、

それぞれ高校生が読解する文章として好ましい。分量と程度と時間のバランスに加え、高校生が取り組むのに適しているかという点について、今後も考えていただきたい。

4 表現・形式

全体の出題形式を見ると以下のとおりである。マーク数も昨年度の本試験と同等である。

内容	発音・ピンイン	語句	表現力	複合的な資料の読み取り	長文読解
問題番号	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
設問数	6	6	8	16	14
配点	24点	16点	40点	60点	60点

5 まとめ（総括的な評価）

令和8年度共通テストの追・再試験は、問題の形式面では本試験とほぼ変わらないものであった。本試験同様、設問形式や内容、単語の選択において高校生レベルの出題が多く、思考力、総合的な判断力を問いながらも、高等学校から中国語を学び始めた受験者を意識した出題者の工夫が感じられた。

中国語の受験者数は昨年度よりも減少しているが昨年度と同じく800人を超えており、以前に比べれば高い水準にあると言える。今後も共通テストの科目として有効に活用されることを希望する。中国語母語話者の受験者が多いことが推察され、他の高校初修外国語に比べても平均点が高いことが続いているが、今年度の問題作成は中国語の文法や語彙を理解しているかどうかだけが求められるのではなく、それらを組み合わせたり活用したりする思考力が求められる問題や、設題の趣旨をよく考えなければ正答に至れない問題が多く、例年に比べて20点以上平均点が下がっており、工夫が見られた。内容的にも学習指導要領「外国語」の目標に基づいており、全体としてはおおむね適切な問題だったと思われる。今後も前文で述べた点について御考慮いただき、高等学校から中国語学習を始めた生徒たちが「是非受験したい」と思う出題をお願いしたい。